



トイレを楽しくする新聞

かわや版

KAWAYABAN



2011夏号
Vol.32

[発行所] 株式会社アメニティ
〒221-0863 横浜市神奈川区羽沢町685
TEL:045-371-7676(代) FAX:045-371-7717
Copyright © 2011 AMENITY INC. All rights reserved.
本誌からの無断転載を固く禁じます。

特集

被災地のトイレレポート

多機能トイレ検索サービス「Check A Toilet」を運営する NPO 法人 Check は、東日本大震災が起きてから 4 日後「被災者（障がい者・高齢者）のためのトイレマップ、被災地のトイレ情報共有サービス」を展開している。また、4月26日から3日間、被災地で支援活動を実施。その当時のトイレ状況をレポートすると共に、被災地におけるトイレの課題について、代表の金子氏からお話を伺った。

金子 健二 NPO法人 Check 代表

1980年東京都生まれ。車いすの方や介護旅行の企画営業として旅行会社に就職。システム開発会社へ転職後クレジットカード会社のコールセンター勤務と同時に、地域団体のヒアリングやシステム企画担当を経て現職。



▶ NPO法人 Checkの被災地支援活動

東日本大震災後、多くの被災地で電気・ガス・水道などのライフラインが断たれ、中には今だに復旧を待つ地域もあります。

当時、岩手・宮城・福島 の3県でも、下水道が許容量の限界を超える寸前で、汚水があふれる危険性があり、そのため、トイレに対する対応は急務となっていました。

そこで私どもは、下水道設備が破壊された女川町・南三陸町・石巻市などの避難所で「トイレを衛生的に使えるようにする」ことに集中しました。

そして、今回の活動では「水を使わないで汚物処理ができる『ラップポン』という自動ラップ式簡易トイレを36台、日本財団から補助金を受け、避難所へ設置してきました。

▶ 支援活動から見てきた課題

① 和式の仮設トイレ

課題 高齢者は、身体的に負担のかかる和式トイレはあまり使いたがりません。

対策 洋式の仮設トイレ/災害用多機能トイレを準備しておく。

トイレの回数を減らすため、水分を取らない高齢者が脱水症状になることも多々あるようです。

② トイレの衛生管理

課題 感染症による二次災害を防ぐためには、手洗い・日常清掃が必須です。

対策 手洗いや日常清掃のため、飲み水とは別の「給水タンク」を準備しておく。

今回の震災に対応すべく結成された石巻圏合同救護チームの代表、宮城県災害医療コーディネーターである石井正医師は、衛生状態の悪化への懸念から、早い段階で給水タンクの設置、ラップポンの設置を指摘しておりました。

③ プライバシーへの配慮

プライバシーに配慮しきれない避難所生活において、トイレは一人で落ち着ける場所として、重宝されます。しかし、朝の混雑時等はなかなか落ち着けません。

対策 用途に合わせた個室の空間の設置(電話ボックス、インターネット環境、更衣室等)。

私ども NPO法人 Check は復興支援活動として、夏から秋にかけてもう一度被災地へ赴き、トイレに関わる活動をしていきます。



南三陸町



ラップポン設置

被災地支援 1日目 女川町

初日に訪れた避難所は、「女川町総合体育館」です。トイレの状況を伺ったところ、避難生活が始まった頃は、プールの水を汲んで仮設トイレに流していたので、震災で負傷した傷口から菌が侵入する等の感染が心配とのことでした。

被災地支援 2日目 南三陸町

南三陸町は、震災3ヶ月後も水道の復旧は全体の1%です。支援で伺った当時も、トイレには苦慮されていました。私どもが訪れた避難所では「ノロウイルス」が検出され、トイレの衛生面が問題となっていました。

被災地支援 3日目 石巻市渡波地区

この地域の避難所では、水が使えない時期から仮設の給水タンクを設置し、トイレの日常清掃を行うなど、衛生管理を考えていました。



個室空間の設置作業



石巻市渡波地区

『ラップポン』とは…

ラップポンは排泄物を特殊フィルムで1回ごとに完全密封する装置です。水も使わず臭いもほとんど出さないため、設置場所を選ばず、室内に設置することが出来ます。屋外型の簡易トイレに比べて夜間の安全性や利便性が飛躍的に向上します。

※電源にAC100Vが必要です。 詳細 HP <http://www.wrappon.com/>



NPO法人 Check の詳しい活動はこちら

NPO法人check 検索 <http://www.checktoilet.com/>



JF秋桜コバヤシ益子店

全葬連葬祭サービスガイドライン遵守事業所 有限会社JF秋桜コバヤシ様

● 創立:昭和57年2月
● 住所:栃木県芳賀郡益子町益子1853
● TEL:0285-72-6644
● <http://cosmos.it-b.com/>

お客様訪問 No.27

陶芸の里、益子を中心に3店舗のセレモニーホールを有する、有限会社JF秋桜コバヤシ様。今回は、マネージャーの小林様にお話を伺いました。

■JF秋桜コバヤシ様の特徴を教えてください。

早くから最新の設備システムを導入し、地域の皆様にご支持いただき、葬祭業安心度調査AAA認定を頂いております。

■お客様に対して、どんな点に気を配っていらっしゃいますか？

最新の設備とトータルセレモニーシステムはもとより、アットホームな雰囲気、どんな小さな事でも細心の真心でお世をお手伝いし、安心してお任せ頂ける様に心がけています。



▲小林マネージャー(中央 女性)とスタッフの皆さま

■トイレに関して気をつけている点や、工夫している点をお教えてください。

清潔感のある、無臭で快適なトイレを心がけております。これは真心のサービスの1つとして大切にしています。

■アメニティを導入した理由と、導入して良かった点を教えてください。

点検清掃は毎日行っており

ますが、専門の方に定期的に診断して頂くことで、より良いトイレを目指しています。



▲清潔感の漂う男子トイレ

■担当(ショップ)に一言お願いします。

担当の岩崎さんは、極めて真面目なトイレのプロです。今後も、快適トイレ作りのお手伝いをお願いします。

■東日本大震災により被災された皆さまへ

犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。また、甚大な被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

☆ 私が担当しています! ☆



SHOP

アメニティ北関東 栃木県芳賀郡

トイレ診断士ID: 10-0203-0104

岩崎 伸幸(いわざき のぶゆき)さん

JF秋桜コバヤシ様を訪問する度に、明るく元気な小林マネージャー様にパワーを頂いております。真心サービスの取り組みの1つ「快適トイレ作り」に、これからも微力ながらお手伝いさせていただきます。また、今回の東日本大震災により被災された皆さまへ、心よりお見舞い申し上げます。そして、復興に向けてできる限りの支援を行っていきたく存じます。

村上 八千世の学校トイレ事情



村上 八千世(むらかみ やちよ)
アクトウェア研究所 代表
早稲田大学人間総合研究センター客員研究員
トイレ環境コンサルタント、絵本作家

3回目 学校のトイレ掃除はだれがする？



全国的にみると、9割以上の小中学校で子どもがトイレ掃除をしているようだ(学校のトイレ研究会

2008年度アンケート調査報告より)。ただ、大都市では子どもがトイレ掃除をしない学校が多い。この場合、用務主事さんや業者が行っていることが多いが、だからといって清潔に維持できているわけではない。なぜなら、子どもが行う場合は週に3~5日は掃除できるが、大人が行うところは校内を順番に掃除するので、トイレ1室に対してせいぜい週に1回程度しかできないからだ。便器に付いた汚れは1週

間そのままなのである。衛生上の問題があって子どもに掃除をやらせないというが、トイレ掃除をやって病気になった話は聞いたことがない。

子どもにトイレ掃除をやらせている学校でも、昔に比べて変化がある。便器掃除は大人が担当して、子どもは周りを掃くだけとか、子どもがトイレ掃除をする前に職員が見下しをして、便などで特に汚れている場合は先に処理をしている学

校もある。また、少し前までは自分で汚したら自分できれいにするということが当たり前のように言われていたと思うのだが、便が便器からはみ出してしまう場合は、自分で処理しないで先生に報告するように指導している学校もあるようだ。感染症対策なのかもしれないが、始末の仕方を教えて、手洗いをしっかり指導するのが筋なのではないだろうか。

学校トイレ.com <http://www.gakkoutoilet.com/>

学校トイレ.comは、学校トイレのメンテナンス、小規模改修に関する情報サイトです。

編集後記

東日本大震災の傷跡の深さは、報道やインターネットを通して毎日伝えられます。警視庁によると7/5現在、死者15,534人、行方不明7,092人、負傷者5,685人と発表。内閣府は6/16現在で避難者112,405人と発表。厚生労働省は3/12~6/5で、岩手・宮城・福島県の3県において、離職票の交付119,776件と発表。

このような境遇の中ですが、前向きに生きる方々の話を聞くと、ただただ頭が下がります。もしも私が同じ境遇だったらと考え、そのイメージに押し潰されそうになり、何か協力できることはないかと考えても大した行動をとることもなく、同じ日本人なのに傍観者になっている自分に自問自答を繰り返します。

それでも今は、自分の仕事や生活が経済活動になると信じ、少しでも日本を元氣したいと励んでいます。(雄撃弾)

アメニティネットワークはトイレから日本を応援します。



あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル 0120-57-1110

